



西南学院大学・

図書館報

No. 5 9

1974年2月5日発行

福岡市西新6丁目

西南学院大学図書館



大学と大学図書館

— 大学の研究・教育に対する

図書館のあり方と将来 —

司書長 刀 根 淳

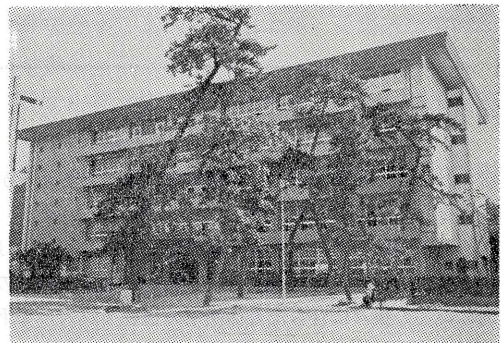
いまさら大学における大学図書館の重要性について云々するまでもないことだが、とかくわれわれは、図書館とは圖書の蓄積・保存と利用といった漠然とした従来の考えに立っての図書館像しかみないことが多く、これはその管理・運営にあたる側からは勿論のこと利用者側からも案外惰性的かつ近視眼的視野において図書館の重要性を見うしないがちである。

そもそも大学図書館は、大学の研究・教育に対して、そのための素材的基礎を与えるものであり、その素材とは、単に利用されるために備えられる消極的条件であるにとどまらず、素材を利用者に提供するという積極的機能を営まなければならない。したがって大学図書館と大学の研究・教育とは密着した相互関係にあることはいうまでもないことであり、特に私立大学における研究・教育の成果の優劣は、かかって大学の研究条件に重要な意義をもつ大学図書館の整備充実いかんにあるといっても過言ではない。しかも時代の進展にともなう大学図書館の役割は、その領域が拡大され、単に大学における研究・教育に資するばかりでなく、すすんで学術情報を提供するとともに、これらの多様化された機能を総合的に管理運営しなければならない。

以上の観点に立って、わが西南学院大学図書館の現状を展望した場合、その組織、運営、施設、管理、資料費、利用など他の同規模の私立大学図書館に比して遜色はなしとするも、図書館使命を十分に果すにはまだしもの感があり、特に図書館業務や組織の合理化は、最近の図書館の緊急問題

としてその検討をせまられている。即ち最近の経済社会の急激な変化を背景とする研究投資の拡大が惹きおこしている情報の氾濫が、資料の激増と利用要求の多様化という形で図書館の質的变化をうながしている状況にある。このことは最近の実例として、本館と常時連携を保っている福岡のアメリカンセンターが、従来の図書館活動より情報活動を主軸としたインフォーマット方式に転換したことにかがわれる。

本館も時代に即応する態勢の充実をはかるための努力をおしむものではないが、本稿をあえて草した所以は、私立大学の質的向上をはかるための必須条件として、すぐれた教育がおこなわれ、その前提の活発な研究がなされる素材としての大学図書館の存在意義と重要性を強調せんがためである。



(付記) 四年次生はやがて卒業をむかえるが、諸君は社会に出れば、在学中にもまして勉強が必要である。卒業後の諸君に対し、図書館は「特別利用者規則」により、出来るだけ利用の便を供するので、図書館を利用してほしい。

研究者は図書館になにを望んでいるか

— 人文・社会科学関係学術情報の流通、利用の
実態調査結果報告書より —

司 書 今 永 義 純

国立大学の教官（助手以上……）のうち、人文、社会科学関係分野を専攻する 7,837人 全員を対象として、
“学術情報利用の実態を把握すると共に、その利用についての意見を伺うことにより、学術情報流通過程における問題点を明らかにし、学術情報の流通、利用体制の整備に必要な基礎資料を得ることをその目的”として、文部省が昭和46年に行なった調査の結果報告書（昭和47年3月）より、大学図書館としての研究者に対するレファレンス・サービスの基礎となることを予想して、特に“研究者は図書館になにを望んでいるか”という質問事項だけに限って採り上げました。私大である本学はこの調査には直接関係していませんが、同じ大学として、国立大学の研究者が図書館に対してはこのようなことを望んでいるということと図書館においてもこのような研究者の要望に今後どのように対処していったらよいか、課題という意味で紹介します。

※文献センター

国立大学附属文献センター

（現在下記の5つがある。設置年度順）

外国法文献センター（東京大・法学部）

日本経済統計文献センター（一橋大・経済研究所）

経営分析センター（神戸大・経済経営研究所）

東洋学文献センター（京都大・人

文学部）

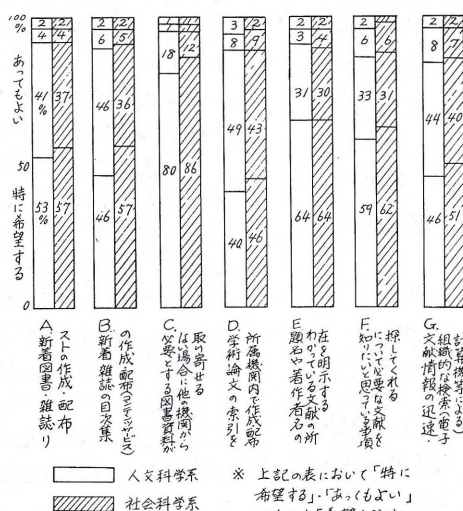
（東京大・東

洋文化研究所）

これらの文献センターは、一般の利用のために公開することを目的としています。当館にも一部これらのセンターの所蔵目録を備えていますのでご相談下さい。文献センターと言えば私は本学のある商学部の先生から次のようなことを聞いたことを思い出します。

「最近のように情報量が増加してくるとちゃんとしたところで専門分野別に網羅的な収書をやってもらわなければ研究ができなくなってきた。めいめい勝手に本を購入するような愚なことはもうやめなければならない」と。

所属大学の図書館文献センター等のサービスに
対する希望度（人文科学系と社会科学系の比較）



※ 上記の表において「特に希望する」「あつてもよい」「希望しない」「無記入の順」です。

『利用者の声』

現在わが校の図書館における蔵書は、そのほとんどが機能を有していないと思います。

あの骨董さながらの本を取り除けば、そのスペースは2・3倍位広がると思います。（中略）不必要なる本の整理と現在の我々に合った書体使用の書物を購入して下さい。（経済学部学生）

『回答』 投書者のご意見には一部誤解もあるのではないのでしょうか。学問をする上で古い図書がどんなに大きな価値をもっているかということは、今更いうまでもないことでしょう。ただそれらの古い図書をオープンにし

ておくことは必ずしも必要のないことで、それらの本はむしろクローズにしたいのですが、残念ながら現在本格的な閉架書庫がありませんので、やむを得ず新しい本と同居させているのが実情です。しかし昭和50年度と52年度の2回に分けて閉架書庫を内装する計画ですので、その際には古い本は一定の基準を設けてクローズ扱いにしたいと思っています。また新購入書については前号にも統計を出しておきましたが、たとえば47年度中に和書7,017冊、洋書7,115冊と増加しています。ただ多数の図書の間に配列されるため分りにくくなる点はあるので、学習室に新刊棚を設けてそこに一定期間展示し、その後それぞれの所に配架していますから新刊棚をご覧下さい。

外国図書館シリーズ

ハイデルベルク大学図書館のことなど

河 島 幸 夫

ドイツ最古を誇るハイデルベルク大学の中でも、大学図書館 (Universitätsbibliothek Heidelberg, 69 Heidelberg, Plöck 107/109, West Germany) は、ゴチック様式の壮麗な建物で、その中には中世吟遊詩人 (Minesänger) 物語や初期活版印刷の聖書をはじめ数多くの貴重な学術文献が収められている。1階はカード室や事務室、2階には大閲覧室がある。大閲覧室の辞書類を除けばすべて開架式になっており、貸出係に申込むとやっと次の日に借用が実現する。学生の借用条件は1人5冊以内4週間であるが、期間は別として、実際には冊数はほとんど無制限である。むろん、指導教授の推せん状があれば、期間もまた大巾に延長される。

これ以外に便利なのは、各学部学科毎に大きな開架式図書室兼学習室があって、学生も自由に読書できることだ。ただこの場合は、借用は週末のみ許される。つまり、土曜に借り出し月曜朝に返却するようになっている。従って大学図書館に在庫してない図書でも、どこかの学部学科

図書室へ行けば備わっていることが多い。私の場合は、研究テーマが『ドイツの政治と宗教』なので、町中に散在する哲学部の政治学科と歴史学科、法学部の憲法学科、神学部の社会倫理学科、教会史学科等々の建物を歩きまわって勉強したものである。

さらに、学生にも研究者にも都合がよいのは、大学図書館にも各図書室にも必ず自動複写機 (電子リコピー) が備えつけられていて、15ペニヒ (約15円) でA4版のコピー1枚 (1マルク=約100円で7枚) が取れるようにしてあることである。これは、ドイツ中どの大学でも同様で、他大学へ文献を収集に行ったときには大変便

利だった。むろん、大学図書館自体も大きな複写室をもっており、ここに依頼すれば、1枚20円でゼロックスを係が仕上げてくれるが、手渡しは数日後となる。ハイデルベルク大

学図書館は、外国からの通信による複写の注文にも応じている。これは、ハイデルベルク以外のドイツの諸大学でも行なわれていることだが、さらにわれわれにとってありがたいのは、料金が後払いの場合が多いことである。

ところで文献のありかや複写事務引受けの可否の問合わせをどこに出せばよいか、わからぬ場合は、一般に西ドイツでは、

INTER NATIONES

532 Bonn-Bad Godesberg

Kennedyallee 91-103

West Germany

に照会すると、文献がどこの図書館にあるか、複写費はいくら、マイクロフィルムならいくらということを調べて返事をくれる。この機関は、文献調査に限らず、ドイツ政府関係の出版物の配布、外国人研究者のドイツ訪問の際の世話などもあつている。

とにかく、ドイツで留学生生活を送ってみて感じたことは、各大学が歴

大な図書を持っていること、各学科図書室もあわせると、同じ本でもかなりの所に揃えてあること等からわかるように、国家が研究・学問・教育のためには日本とは比較にならぬほどの莫大な金とエネルギーを注ぎこんでいるということである。その反面、(否それだからこそであろうか) 小学生から大学生にいたるまで試験地獄なしにのびのびと勉強ができるというのは、何ともうらやましいというほかない。

(法学部講師)



< ニュース >

- 48.12. 4 文学部に児童教育学科増設申請にともなう
教職課程認定のための図書館実地視察が行なわれた
48.12.10~14 アメリカンセンターのインフォーマット
見学会を実施(図書館員全員参加)

図書館委員会

- 48.10.29 (議題) ①49年度図書館予算要求について
②資料費支出、決算内規について
48.12.26 ①図書館資料費予算配分規則案について
②高額図書購入について

研修・出張

48. 5.10~11 九州地区大学図書館協議会(於:長崎
大学、長崎造船大学) 刀根司書長出席
48. 6.26~30、大学図書館研究集会(於:群馬・草津
ホテルヴィレッジ) 田中司書出席
48. 7.16~9.13 司書講習(於:別府大学) 榎司書出
席
48. 7.26~28 私立大学図書館協会、第34会総大会・
研究会(於:東洋大学) 木村館長出席
48. 9.28 私立大学図書館協会九州地区協議会・研究
会(於:西日本工業大学) 中村司書出席
48.10.18 福岡県図書館協議会福岡地区研究会(於:
福岡教育大学) 杉本課長補佐出席
48.10.23~26 大学図書館職員講習会(於:岡山大学)
今永係長出席
48.11.1~3 私立大学図書館協会西部地区部会研究会
(於:中京大学) 杉本課長補佐出席
48.11.8~9 第5回国際連合寄託図書館会議(於:東
京大学) 木村館長出席

卒業生の図書館利用について

本学の卒業生は、一定の手続を経て、図書館を利用することができます。実社会に出てからも、職務上の研究や調査などに図書館を利用する必要は屢々生じますし、また自己の教養・知識の充実向上のためにも、図書館の利用は欠くことのできない手段です。世は正に情報化時代。卒業されてからも、どうぞ図書館を活用されて、この情報化時代に対処していられるよう望みます。

利用手続

○希望者は、特別利用規則の定めるところにより、次に掲げるものを提出しなければなりません。

- | | |
|----------------|------|
| ※特別利用許可願(本館備付) | 1通 |
| ※卒業証明書 | 1通 |
| ※上半身名刺型写真 | 1葉 |
| ※手続料金(11月) | 100円 |

手続が完了すると、特別利用者証を交付します。入

館、貸出等の手続、貸出冊数、期間は、在学中のものと
2
11月5日
変わりません。

—— 奉仕係より ——

○ 本館は、新聞を資料として長期間保管し皆さんの利用に応じています。しかし、必要記事の切り取りや、当日分の新聞が閲覧台より消え去ることが時々あります。利用する者にとっては、大変迷惑を受けています。

お互いに注意しあってください。

○ 本館は開架図書館ですが、閉架図書も多く在庫していますので、図書目録カードをより多く利用してください。

和書の場合は、著者名、書名又は分類(洋書は著者名、分類)のいずれかが判明すれば、それをたよりに本の請求番号を探し出し、その番号で図書を見出すことが出来ます。閉架図書の閲覧希望をされる時、又は、図書に関していろいろな情報を知りたい時は、係員にたずねてください。

出来る限り、指導と援助をいたします。

○ ロッカーの利用をノ

閲覧室では、コート、カバン、女子学生のハンドバック、紙布製袋などの持ちこみを禁じてます。どうぞ規則を守って下さい。(中村)

告知板

○春休長期貸出

1月30日より実施 冊数は3冊以内。期限は、卒業予定者は2月末日まで、それ以外の方は4月26日まで。

○春休中の開館予定

2月12日(火)から4月13日(土)までの期間。
午前9時から午後5時まで(土曜日は正午まで)
開架閲覧室を開き、学習室は閉じます。ただし、
※2月15日~19日は入試のため閉館。

※3月11日~16日は在庫調査のため開架閲覧室を
閉室し、その間、学習室を開室。

〔あ と が き〕

後期試験も終りに近づき、学生の方も、ホッとした安堵感で一杯でしょう。図書館では、告知板のように春休みも開館しておりますので御利用下さい。今号は、外国図書館シリーズ第2弾で河島先生の玉稿を賜わり感謝しております。最後に一句、「真理は愛する者の所有である」<ジョルダノー・ブルーノー> (M)

自 昭和48年10月 ～ 至 昭和49年 1 月

愛知学院大学経営研究所より 『西ドイツ連結財務諸表論』

防衛庁長官官房広報課より 『日本の安全保障 1973年版』

防衛施設庁総務部総務課より 『防衛施設庁史 第1巻』

中小企業庁より 『中小企業庁25年史』

大本本部より 『出口王仁三郎著作集 第5巻』

大韓民国駐日公報館より 『平和統一への大道』、『民族の底力』

江里英俊氏より 『エデンの探求』

福井大学附属図書館より 『図書館利用のしおり』

福岡県企画開発部交通対策課より 『交通年鑑 昭和47年』

外国文出版社より 『チョソンの婦人』 2部

外務省調査部企画課より 『わが外交の近況 昭和48年版』

学燈社より 『日本の後宮 餘録』

長谷川久子氏より 『基軸通貨(磅・弗)史考』 2部

平木顕彰会より 『近代職業会計人史』

ほんみち教義部より 『ほんみち概観』

上智大学より 『刑法における過失共働の理論』

金沢市企画調査部より 『金沢市の市民所得(昭和40年度～46年度改定)』

金融経済研究所より 『金融研究会講集 III 第9～16編』

甲飛十期会より 『散る桜残る桜』

国桂会より 『日蓮主義の信仰』、『日蓮主義とはなにか』、『折伏とはなにか』、『私たちの法華経』

国学院大学より 『校本日本書紀 1』

国立国会図書館より 『国立国会図書館蔵書目録 第1編第2冊 歴史・地理』

国立国会図書館調査立法考査局より 『レファレンス文献要目 第14集』

国際電信電話株式会社より 『インテルサット(国際電気通信衛星機構)恒久協定の研究』、『国際電信電話年報 昭和47年度』

鋼材倶楽部より 『鉄鋼二次製品年鑑 昭和48年版』

久留米大学ネパール医学調査診療委員会より

『ネパールの医療事情』

九州経済調査協会より 『九州経済概観 1973』

明治生命保険相互会社より 『明治生命の90年』

宮内力氏より 『続・現代の念写』

村上寅次教授より 『舞鶴幼稚園60年のあゆみ』

日本大学総合科学研究所より 『日本大学研究業績総覧 20 1969後期』

日本放送協会より 『NHK年鑑 1973』

日本興業銀行特別調査室より 『社債一覧』

日本精神薄弱者愛護協会より 『精神薄弱の研究 第7集』

日本図書館協会より 『かえりみて明日を思う』 3部

労働省職業安定局より 『労働市場年報 昭和47年度』

最高裁判所図書館より 『邦文法律雑誌記事索引 第16号』

成城大学経済学会より 『西ドイツ付加価値税の研究』

世界の動き社より 『ソ連という国』 3部

私立大学図書館協会目録編成規則研究グループより 『大学図書館における目録編成規則』

総理府統計局統計情報課より 『Statistical Handbook of Japan, 1973.』

高田源清教授より 『経営権の確立』、『裁判と倫理(故江口繁先生追悼記念論文集)』、『商法・経済法の諸問題(高田源清教授還暦記念論文集)』 2部

高砂熱学工業株式会社より 『高砂熱学50年の歩み』

時子山常三郎先生古稀祝賀会より 『早稻田生活半世紀』

東京空襲を記念する会より 『東京大空襲戦災誌 第1～4巻』

東洋大学付属電子計算機センターより 『経営理論と情報処理』 2部

山形県鶴岡市教育委員会より 『鶴岡市の文化財市指定篇』

吉岡義二氏より 『地球国家2106年』